

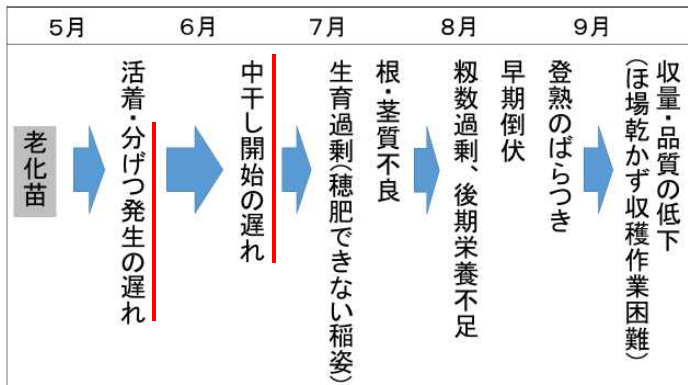
# 収量・品質の大半はここで決まる！！ 健苗育成と土づくりに取り組もう！！

## ここがポイント！！

- 1 田植え日から逆算して育苗計画を作成（育苗期間は 20 日間程度）
- 2 コシヒカリは種子の休眠が深いため、浸種は水温 12℃（積算 120℃）をめやすに実施
- 3 土づくり資材の施用とほ場の排水対策を実施

### 1 健苗育成のポイント

#### (1) 老化苗を植えるデメリット



#### 老化苗では初期生育が劣る！

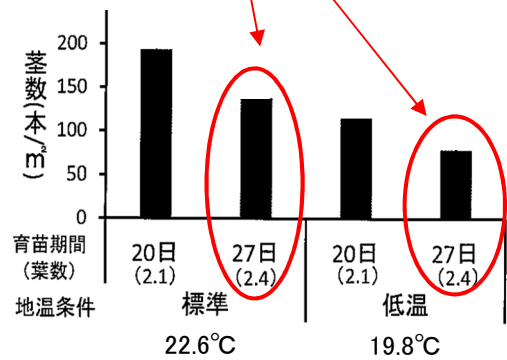


図 田植え 20 日後の茎数

※地温条件は田植え 11 日後から 10 日間処理

#### ～老化苗の原因～

- ①長過ぎる育苗日数 ②厚播きと高温・多湿管理等による過繁茂 ③栄養・水分不足

#### (2) 田植え日から逆算して育苗計画を作成(コシヒカリ:5/10 移植→4/20 播種がめやす)

##### 播種までのスケジュール(例)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	1	2	3	4	5	6
4月					塩水選 種子消毒	風乾 →
7	8	9	10	11	12	13
	→浸種→					
14	15	16	17	18	19	20
	→催芽→					
	→播種→					
	水替え					

#### (3) 育苗期病害の防除

- ア 種子消毒の効果を高めるため、網袋に入れる種籾の量は袋の 7 割以下とする。
- イ 種子消毒+殺菌剤処理(播種時処理、培土混和等)の体系防除を実施し、防除効果を高める。
- ウ 温湯消毒や微生物農薬による種子消毒を実施する場合、単独処理では防除効果が劣るため、それぞれを併用する。

#### (4) 風乾:消毒効果の向上

風通しの良い日陰で、粃の表面が乾き、薬剤が固着するまで乾かす。ただし、微生物農薬については乾かし過ぎに注意する。

#### (5) 浸種:発芽の均一化

ア 水の量は種粃容量の2倍程度(粃1kgあたり3.5L)とする。

イ 最初の4日間は水を替えず、その後は必ず2~3回水を更新する。温湯消毒の場合には雑菌が繁殖しないよう、浸種前半から必要に応じて水を更新する。

ウ 浸種水温は10~15℃とし、積算水温100℃をめやすに行う。(浸種初期の水温10℃以下は厳禁)

エ 平成30年産のコシヒカリ種子は休眠が深い予想(作物研究センター)のため、浸種水温12℃、積算水温120℃をめやすに実施する(こしいぶきの休眠性は平年並)。

#### (6) 催芽:催芽機の設定温度は30℃とし、ハト胸状態の種粃が80%以上となるよう催芽



#### (7) 播種:播種量は乾粃で130~140g/箱(催芽粃で160~175g/箱)



140g 播種  
(催芽粃で約170g)



170g 播種

## 2 気象変動に負けないイネづくり~土づくりの実践と作土深15cmの確保~

### (1) 土づくりの実践

ア 土壌分析結果に基づき、ケイ酸等不足成分を補充する土づくり資材を施用する。

イ 砂質土壌等の秋落ち水田では、鉄分やマンガンを補給し根腐れや秋落ちを防止する。

### (2) ほ場の排水対策

ア 耕耘前に周囲明渠や排水溝等により排水を促進し、ほ場を乾かす。

イ 過湿状態で耕起すると耕深が浅く不均一になりやすい。また、稲わらの腐熟が進まずワキが発生しやすくなり、水稻の生育に悪影響を及ぼす。

### (3) 作土深15cmの確保

ア 作土を深くすると根量が増え、イネの養分吸収量が増加し収量や品質が向上・安定化する。

イ 毎年1cmずつ深く耕耘して耕深15cmを確保する。

**メールマガジン登録募集中!** 水稻生育状況や栽培管理のポイントをお届け  
希望者は [ngt112130@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt112130@pref.niigata.lg.jp) までご連絡を!  
※件名に「メルマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください